

公開実用 昭和52—14190

6

BEST AVAILABLE COPY

実用新案登録願 (ウ)

(3,000円)

昭和50年7月18日 適

特許庁長官 齋藤 英 雄 殿

1. 考案の名称 魚 肉 用 洗 手

2. 考 案 者

住 所 東京都東久留米市前沢3-14-16
氏 名 川 合 浩

3. 実用新案登録出願人

住 所 東京都東久留米市前沢3丁目14番16号
氏 名 アイワ精工株式会社
代表者 杉 本 展 夫

4. 代 理 人

住 所 東京都新宿区新宿1丁目29番8号
氏 名 (6947) 弁理士 横 田 寛

5. 添付書類の目録

(1) 明細書	1 通
(2) 図面	1 通
(3) 願書副本	1 通
(4) 委任状	1 通

方式
審査

小川

50-099903

特許庁

50.7.19

出願第二課
大 概

4717



明 細 書

1. 考案の名称 魚 釣 用 沈 子

2. 実用新案登録請求の範囲

沈子本体の中心部に透孔を設けると共に該透孔の一端又は両端に係止具を突設したことを特徴とする魚釣用沈子。

3. 考案の詳細な説明

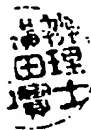
本考案は魚釣用沈子を魚釣方法に応じて使い分け使用できるようにしたもので、沈子本体の中心部に透孔を設けると共に該透孔の一端又は両端に係止具を突設したことを要旨とするものである。

本考案の実施例を図面について説明すると、(1)は略楕円球状をなす沈子本体であつて、その長手方向の中心部に透孔(2)が穿設されると共に該透孔(2)の両端部における沈子本体(1)には半環状に係止具(3)が突設固定されている。

本考案は上記のように構成されているから釣糸

(1)

BEST AVAILABLE COPY



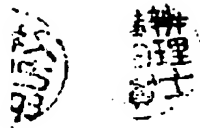
(4)を撿取り(5)を介して係止具(3)に固着し沈子本体(1)を第3図(A)のように釣糸(4)(4)間に取り付けたり、或は釣糸(4)の最下端に取り付けたり更には釣糸(4)を第3図(B)のように沈子本体(1)の透孔(2)に挿通したりして魚釣方法によつて使い分け使用するものである。

また前記実施例においては透孔(2)を沈子本体(1)に直接穿設しているが、第4図のようにパイプ(2)'を沈子本体(1)より突出するように挿着して透孔(2)を形成し該パイプ(2)'の突出端に孔の係止具(3)を設けることもできる。

本考案は沈子本体の中心部に透孔を設けると共に該透孔の一端又は両端に係止具を設けたので釣糸を透孔に挿通したり、係止具に固着したりして沈子を魚釣方法の種類に応じて使い分けことができ、従つて極めて簡易な一個の沈子をもつて常に最適な魚釣操作ができる優れた特徴と実用性を

(2)

NOT AVAILABLE COPY
ST AVAILABLE COPY



有するものである。

4 図面の簡単な説明

第1図は本考案の縦断正面図、第2図は同平面図、第3図は本考案の使用状態を示す説明図、第4図は本考案の別実施例の縦断正面図である。

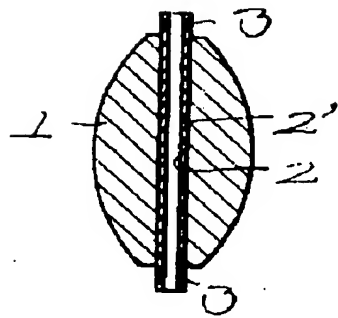
(1)・・・沈子本体、(2)・・・透孔、(3)・・・係止具。

実用新案登録出願人 ダイワ精工株式会社

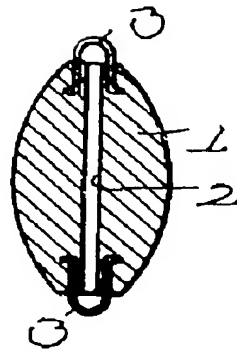
代理人 横田 實



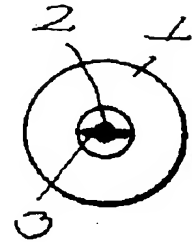
図四



図一

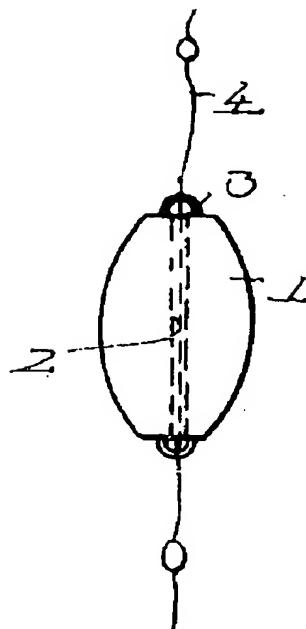


図二

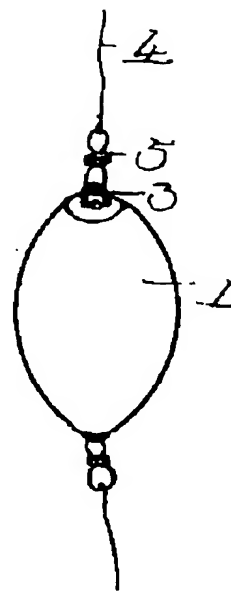


図三

(B)



(A)



14190

出願人 大井ワ精工株式会社
代理人 廣田 英

BEST AVAILABLE COPY

